

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人
------	----	-----	----	-----	----	-----

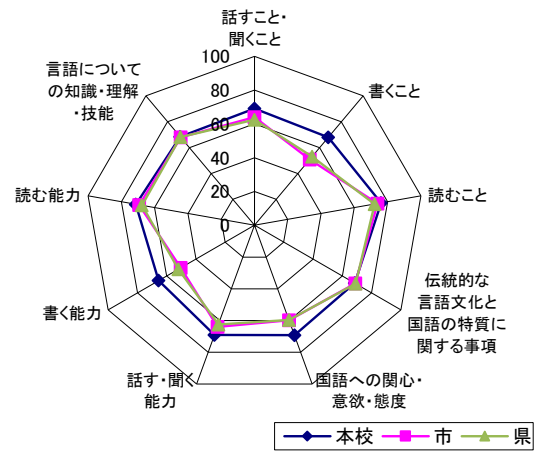
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.1	64.0	62.5
	書くこと	67.9	50.9	53.1
	読むこと	76.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	69.2	59.9	59.7
	話す・聞く能力	69.1	64.0	62.5
	書く能力	65.5	50.4	52.0
	読む能力	71.3	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.3	67.9	68.2



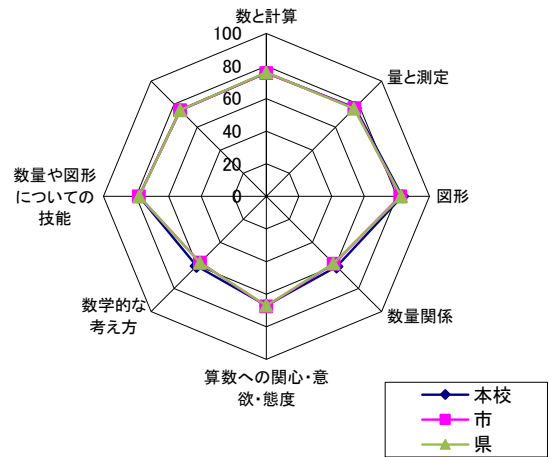
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、市の平均と比べて10%以上高い。</p> <p>○大事なことを聞き逃さず、話題にあった意見と理由がしっかり記述できている。</p> <p>●インタビューの質問を考える問題では、自ら質問事項を考えられる児童が28.4%と低かった。質問の内容に合っていない自分の考えを記述している児童が多かった。</p>	<p>・授業に多くのペア学習やグループ学習の機会を多く設定したことが、力が伸びている原因と考えられるので、今後も引き続き互いの意見の聞き話し合う機会を多くもてるような授業展開を継続していきたい。</p> <p>・授業の経験から自らの考えをはっきりと表現できる児童は多いが、相手の意に沿った考えをまとめる経験が少ないので、今後の授業において、相手に考えに自分の考えを積み重ねていけるような授業の展開を工夫していく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、どの問題に関しても市の平均より10%以上高い。</p> <p>○書こうとしていることを明確にして、文章に表現することができている。</p>	<p>・授業においての作文指導や日記指導により、「文章を書くこと」に抵抗感を持っていない児童が多いので、今後も指導を継続していく。</p> <p>・文章を書く際に、段落構成を考えた文や理由が明確な文となるように、意図的に強く意識付けさせていく。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○物語文の場面の様子や登場人物の心情を読み取ることがよくできている。</p> <p>●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ること課題が見られる。</p>	<p>・物語文を読む際に、言葉や動作、表情など登場人物の気持ちが表れている文章に線を引いて意識づける指導を継続して行う。</p> <p>・説明する文章を読むときには、要点や指示語に注目させ、文章構成を考え読むように指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は、市の平均と比べて同等である。</p> <p>○第3学年配当漢字を読むことがよくできている。</p> <p>●間違いやすい漢字に関して課題が見られる。</p>	<p>・毎日の漢字練習において、正しい漢字を書けるよう筆順にも気をつけて丁寧に取り組めるように指導する。</p> <p>・間違いやすい漢字については、正しい文字と誤った文字を並べて書くなど、時間をかけて正しく認識させていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.8	75.8	76.1
	量と測定	76.9	76.5	76.0
	図形	83.3	82.1	82.7
	数量関係	60.9	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	66.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	60.5	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	78.2	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	74.9	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

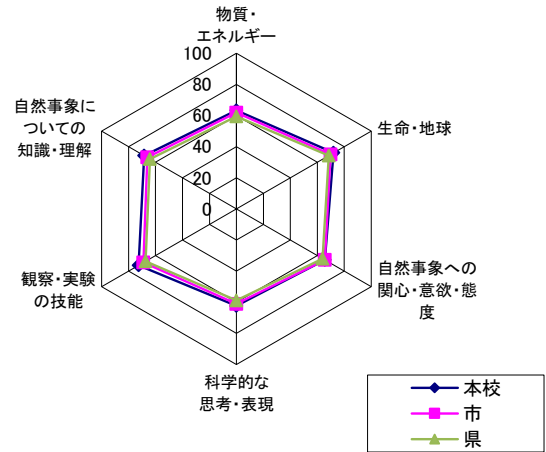
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○同分母の真分数+真分数=真分数の計算の正答率は、97.7%と高い。</p> <p>●3けた-3けた=3けた(波及的繰り下がりあり)の計算に課題が見られる。</p>	<p>・ステップアップシート、プリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、速く正確に計算ができるように児童に意識付けさせる。</p> <p>・復習の時間を設け、繰り返し同じパターンの問題に取り組ませて計算の仕組みを理解させる。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○はかりの目盛りの読み方を理解している。</p> <p>●3けたの足し算や引き算を正しく計算することに課題が見られる。</p> <p>●道のりや距離の定義の理解に課題が見られる。</p>	<p>・具体物を活用したことで、量感を捉えることができ、理解が深まったので、引き続き身近な日常生活の中においても、量感を意識した指導を行う。</p> <p>・類似問題を数多く解き定着を図る。</p>
図形	<p>○平均正答率は、市の平均より1.2%高い。</p> <p>○正三角形を正しく作図することができている。</p> <p>●半径や直径の理解に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な図形の定義や性質についての理解をさらに深め、作図ができるように繰り返し問題に取り組ませる。</p> <p>・関連した問題が出た際には、再度確認しながら取り組み、知識の定着を図る。</p> <p>・授業の最後には、学習したことを振り返り、知識の定着を図る。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、市の平均より2.5%高い。</p> <p>●分からない数に□を使って問題の通りに式や図に表すことに課題が見られる。</p> <p>●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明することに課題が見られる。</p>	<p>・引き続き、自分の考えを言葉や式、図などを用いて説明する活動を取り入れていく。</p> <p>・折れ線グラフの学習において、目盛りの大きさに注目して正しく目盛りを読むことができるように繰り返し練習問題に取り組んだ。</p> <p>今後理科や社会のグラフの読み取りの際には、目盛りに注目させて、授業を展開していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.3	61.9	59.4
	生命・地球	72.0	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	62.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	72.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	68.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○正答率は、市の平均と比べて同程度である。</p> <p>○「光のせいしつ」や「じしゃくのせいしつ」の正答率は市の平均と比べて高く、よく理解している。</p> <p>●実験から得られた情報を生かして、科学的推測を行う問題の正答率が市の平均と比べて低い。</p>	<p>・光や磁石の性質をよく理解できていたのは、予想、結果、考察の手順をしっかりと押さえた授業をしてきた結果である。今後もさらにさらに継続して丁寧に指導していく。</p> <p>・授業の予想を立てる段階で、科学的根拠を明確に示して考えることを児童に強く意識付させ、常に原因と結果を考えながら取り組めるよう指導する。</p>
生命・地球	<p>○正答率は、市の平均と比べて同程度である。</p> <p>●昆虫の生態に関する問題の正答率が市の平均と比べても若干低い。</p>	<p>・観察・実験から、正しい知識・理解している児童が多い。今後も児童の興味関心が高まるような授業展開を工夫していく。</p> <p>・自然豊かな環境に生活している児童が多い割に、身近な昆虫について注意深く観察していない児童が多い。今後は、季節ごとの自然観察の授業において、観察のポイントを意識した上で、自然に触れ合う機会を多く設定していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は自分のためになっている」の質問に関しての肯定的回答率が100%であり、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問に関しての肯定的回答率が97.8%と高く、学習に向かう基本的な姿勢が身につけている。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の質問に関しての肯定的回答率が90%以上あり、勉強に興味をもって取り組んでいる姿が見られる。引き続き、各授業におけるねらいを明確にし、振り返りを行う授業を展開する。

○「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に関しての肯定的回答率が81.8%と市や県の平均より高い。学校での家庭学習のやり方を示したこと、自主学習チェック表を活用することによって児童や保護者の意識が高まってきた。今後も引き続き継続し、力を伸ばしていきたい。

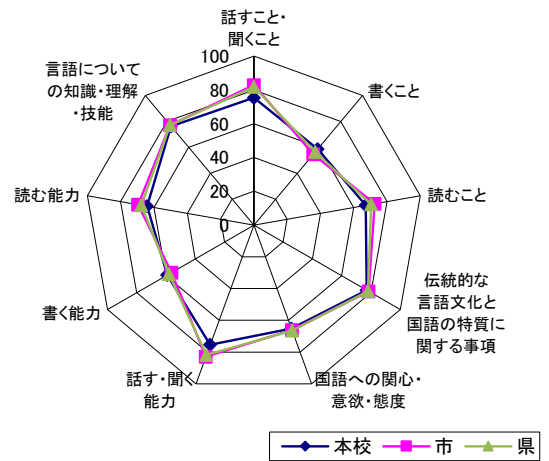
●「平日学校の時間以外に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に関して30分以上1時間未満と答えた児童が43.2%である。また、「土日に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に関して、1時間未満と答えた児童が47.7%と多い。学年の自主学習の設定時間は50分以上としているので、児童及び保護者に自主学習への継続的取り組みの重要性について引き続き啓発を行っていく。

●1か月の読書量が1,2冊と答えた児童が27.3%と多い。また、1日の読書時間が10分以上30分未満と答えた児童が31.8%と多い。このことから、学年児童の読書量が少ないことが分かる。朝の読書の時間や、読み聞かせを通して本により興味をもたせ、読書量を増やしていきたい。また、社会、理科、総合的な学習を通して、調べ学習に資料として本を活用する経験を積み重ねていく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.4	82.9	81.8
	書くこと	58.7	54.8	56.5
	読むこと	67.3	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	65.2	66.0	66.4
	話す・聞く能力	75.4	82.9	81.8
	書く能力	59.2	56.3	57.9
	読む能力	64.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	76.3	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

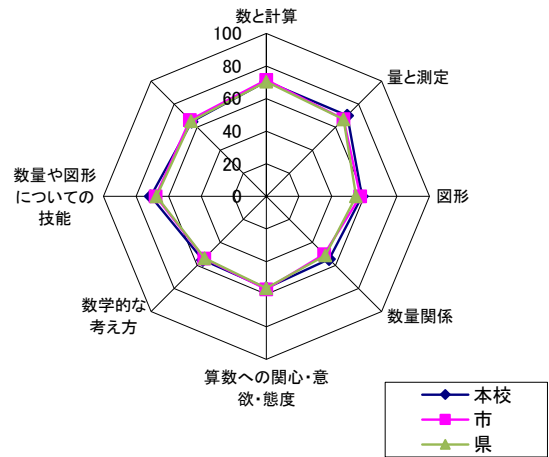
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●話し合いにおいて司会者として参加者の発言の共通点をまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・話し合いの機会を積極的に設けることで、話のポイントをまとめる経験を重ね、実際の場面で活用できるようにしていきたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○書こうとすることの中心を明確にして文章を書く力は身に付いている。</p> <p>●情報を適切に読み取り、文章を書く力が十分とは言えない。</p>	<p>・文章の要点をまとめる力をつけるために、指定された文字数や条件に合わせて文章を書く時間を、授業や朝の学習の時間に設定する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●物語文では、文章に書かれていないことを文脈から読み取る力が十分とは言えない。</p> <p>●説明文では、段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る力が十分ではない。</p>	<p>・物語文では、状況を整理し、登場人物の心情について言動を表す言葉に注目して読み取れるようにしていく。</p> <p>・説明文では、段落のまとまりに気付くことができるよう、段落のキーワードを押さえながら、筆者の伝えたいことを読み取れるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●文の構成(連体修飾語)についての理解が十分ではない。</p> <p>●漢字辞典の使い方の理解が十分ではない。</p>	<p>・授業や朝の学習の時間に、修飾語に関する問題などを意図的に取り上げて習熟を図る。</p> <p>・各教科の調べ学習や日常生活の中でも、国語辞典や漢字辞典を利用する機会を増やし、語彙を増やしたり漢字の読み書きの習得をできるようにしたりしていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	71.5	70.4
	量と測定	70.2	67.0	66.9
	図形	58.6	57.6	55.0
	数量関係	54.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	56.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	55.1	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	71.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.8	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

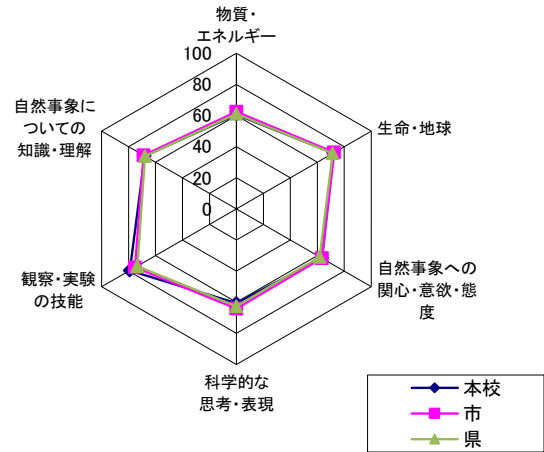
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>○小数や分数の基本的な計算を解く力は、身に付いている。</p> <p>●上からある桁までの概数の表し方や○○以上○ ○未満が表す数の範囲の理解が十分ではない。</p>	<p>・今後も朝の学習の時間などを活用して、基本的な計算をする力が向上するよう指導していく。</p> <p>・自分たちに身近な場面で考えることができるよう、社会科の人口や土地の面積など、他教科の学習とも関連付けて指導していく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○公式を理解し、面積を求める力が身に付いている。</p> <p>○図系の特徴を捉え、必要な辺の長さを求める力が身に付いている。</p> <p>●文章や図を関連させて、180度以上の角の大きさを求める力が十分とは言えない。</p>	<p>・今後も朝の学習の時間などを活用して、面積を求める力が向上するよう指導していく。</p> <p>・文章から読み取った情報を図に書き込む習慣を身に付けさせ、文章や図を関連付けて考える力が身に付くよう指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○コンパスや定規を活用して正しく作図することができている。</p> <p>○図形に関連する用語の理解が高い。</p>	<p>・今後も朝の学習の時間などを活用して、作図をする力が向上するよう指導していく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○四則計算の決まりを理解することができている。</p> <p>○表の読み方を理解し、問題に示されたものが表のどこに当てはまるのかを選ぶことができる。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを見て、グラフの変化の仕方の違いから考え方が正しくない理由を説明する力に大きな課題が見られる。</p>	<p>・いろいろなグラフを読み取ったり、そこから分かることを文章化したりする力を身に付けられるよう、類似の問題を解く機会を意図的に設定する。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.6	62.4	61.1
	生命・地球	71.7	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.4	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	79.1	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	68.1	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○水を温めると体積は大きくなることや金属の温まり方について理解している。</p> <p>●水が氷になるときの体積変化について、記述する力が十分ではない。</p>	<p>・補助教材などを活用し、与えられた条件に合わせて文章にする力を身に付けられるよう指導していく。</p> <p>・実験などの体験的活動を効果的に取り入れ、児童の物質・エネルギーに対する理解を深められるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県平均より高い。</p> <p>○一年の植物の成長や気温と生物の活動の様子の変化について十分理解している。</p> <p>●月の形の名称や、半月の動き方について理解が不十分である。</p>	<p>・実際に観察などを行うことで、体験的に学ぶ機会を多く設定し理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○平日や休日の学習時間は、県の平均に比べてやや多く、特に土日に4時間以上学習をする児童の割合が高い。
 ○学校の宿題は、「自分のためになっている」と答えた児童が100%で、「量はちょうどよい」「やりたくなる内容だ」と答えた児童も県の平均を上回っている。
 ○「勉強していて、おもしろい、楽しい」と感じている児童が、88%で県の平均を上回っており、「不思議だな」「なぜだろう」と感じたり、疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたいと思ったりする児童も県の平均を上回っている。
 ○学習に自分から取り組んでいるかということについては、肯定的回答が88.1%で県の平均を大きく上回っている。
 ○教師が自分を認めてくれていると感じている児童が、県や市の平均と比べて多い。担任への信頼感が高い。児童同士でもお互いに相手の頑張りやよさを認め合う活動を継続し、指導に当たっていく。
 ●家庭での学習習慣で、学校の宿題をすることや授業の予習をすること、また、だいたい同じ時刻に学習に取り組むことについては、県の平均と比べてやや低い。
 ●学校の授業時間以外に読書をする時間については、2時間以上読む児童が県の平均よりも高いが、10分以上30分以下の児童は県平均よりも低く、児童よっての個人差が大きいと考えられる。
 ●本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ているかの質問に対して、「はい」を回答した児童の割合が9.5%で、県の平均に比べ大きく下回っている。
 ●朝食を必ず食べる児童の割合が、県や市の平均よりも大きく下回っている。このことから、朝食を食べてこない日がある児童がいると考えられる。家庭への啓発を図っていく。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりを理解して守るように指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるように心掛けて指導する。	学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」児童は4年生で81.8%、5年生で88.1%である。
学習のねらいを達成させるための学び合い	自分の考えをもたせ、ペアやトリオ、グループ、全体での協働的学び合いを充実させる。振り返りの時間を確保し、自分の言葉で振り返りを書くようにさせる。	授業では、「クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問で肯定的な回答をした割合は、4年生は90.9%、5年生81%であり、話し方や聞き方が身につけてきているが、クラス内では個人差がある。 「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で肯定的回答をした割合は、4年生88.6%、5年生85.7%である。
家庭学習への取組	家庭学習の手引きを活用したり、懇談会等で家庭学習ノートの使い方などを紹介したりして計画的で復習に役立つような家庭学習が行えるような働きかけをするとともに、児童へ取組について称賛や個別指導を行う。	家で学校の宿題をしている児童は、4、5年生ともに95%を超える。しかし、自分で計画を立てて勉強している児童は、4年生が77.3%、5年生が76.2%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、各教科において基礎的内容の理解が不十分であることがわかった。特に活用の問題で正答率が低い傾向にある。 学力調査の形式に慣れていないため、時間配分がうまくいかず、解ききれなかった。誤った答え方をした児童が数名いた。	復習を中心に定着させる学習の充実 過去の問題を解かせることで学力調査の形式に慣れさせ、問題の出題傾向をつかむとともに実力が発揮できるようにする。	3年生以上の学習で主に算数の習熟度別学習やTT等の学習形態を工夫し、単元ごとにコース別学習を取り入れることで分かる授業の実現を目指すようにする。 低学年から読み書きの基礎的な力を高めるために、個に応じた教材の活用を図る。 実験器具の扱いや観察の仕方などを覚え、記録した結果を分析、考察してまとめていく活動を丁寧に進める。 過去の問題や形式が似た問題を多く解くようにさせ、学力調査自体に慣れるようにする。